

1.3 新潟市の農業・農村の課題

課題1 良好な農業生産基盤の整備・確保

豊かな暮らしを支える食と農を守るためには、意欲ある担い手が安定的に営農を継続できる環境を整え、持続可能な農業を実現する必要があります。農業者の高齢化や労働力不足が進行する中、農作業の省力化・効率化によって収益力の向上を図るためには農地の大区画化・汎用化が欠かせませんが、令和3(2021)年度の水田整備率は52.3%と県平均の64.7%を下回っています。良好な営農条件を備えた活用しやすい農地を確保することが望まれています。

また、市域の4分の1が海拔ゼロメートル地帯の低平地であり、基幹的な農業水利施設は農地の保全のみならず市民の生命・財産を守る役割を担っています。老朽化に対する適切な保全管理が求められます。

今後は、本市の農業の持続的な発展や農業者の効率的かつ安定的な農業経営を支えるため、農業生産基盤の整備・保全を一層推進するとともに、計画的に担い手への農地の集積・集約化を進めていく必要があります。

課題2 経営感覚をもった意欲ある担い手への営農支援と多様な人材の確保・育成

全国で少子・超高齢社会が進展する中、本市も特に15～64歳の生産年齢人口の減少率が高く、世代間バランスの取れた農業構造を維持する点においても農業における担い手確保は非常に大きな課題です。加えて後継者がいない農業者も増加しており、農地や農業技術の円滑な継承も、一層深刻化していくと見込まれます。

一方で、農業法人等への就業機会の拡大も見られます。国においては就農定着への雇用環境整備や就業者への支援をはじめ、生産現場における人手不足を多様な主体の活躍や技術の活用によって支えていく取組なども検討されていますが、本市においても地域の実情や雇用環境、関係者のニーズに応じたきめ細やかな支援体制が望まれています。

今後は、次世代を担う多様な人材を確保・育成するとともに、意欲ある担い手が、経営感覚を磨きながら、所得の向上や安定した経営により営農継続できる環境の整備を進め、若者に職業として選ばれる「農業」となることが必要です。

課題3 デジタル技術を活用した営農の効率化や生産性・収益性の向上

本市は、平成26(2014)年に大規模農業の改革拠点として、国家戦略特別区域に指定されて以降、デジタル技術の活用による農業の生産性向上プロジェクトに、数多く取り組むなど、官民協力のもとスマート農業の実証・実装をいち早く進めてきました。

少子・超高齢社会に適応し、現在の生産水準を維持していくためには、更なるデジタル技術の活用を通じた営農の省力化や効率化と合わせ、品質や収量の向上が求められます。また、SDGsや持続可能な食料システムの構築に向けた国内外の動きが加速しており、農業においても、地域の環境、経済、食料の安定供給などへの配慮や貢献が求められています。しかし、デジタル技術を活用した新たな取組については、導入コストが大きい場合があり、農業経営の安定化の面では課題もあります。

今後は、農業の持続可能な発展と「儲かる農業」を実現するため、スマート農業やデジタル技術の活用を加速化し、営農の省力化や効率化によって生産性や収益性の向上を図るとともに、農業現場のニーズに対応した環境にやさしい農業や資源循環型農業への取組を進めることが必要です。

課題4 需要に応じた農産物の生産・販売体制の構築

本市は、日本一の米の産出額を誇る大農業都市で、米以外にも、市内各地で野菜、果樹、花きなど多様な農産物の産地を形成し、地域の特性を活かした農業が展開されています。

しかし、本市の農業経営体は米による収入の割合が高いことから、主食用米需要量の減少傾向が続く中、新型コロナウイルス感染症拡大で経験したように、米の需給変動によって所得が不安定になりやすい状況にあります。また、園芸では手作業による労働集約的な品目も多いため、労働力や後継者不足などへの対応が求められています。こうした課題は本市に限ったものではなく、国内の各産地が創意工夫により地域ブランド化による生産や販売を模索しており、地域間競争は激化の一途をたどっています。

今後は、消費者や食品関連産業などのニーズに応じた米や多様な農産物の生産を進めるとともに、園芸導入による経営の複合化、6次産業化への支援や関連産業との連携、国内市場はもとより海外マーケットも視野においた販売体制の構築を進め、「生産」と「販売」を施策の両輪として推進し、本市の意欲ある担い手が夢をもち取り組んでいける持続可能な「儲かる農業」を実現する必要があります。

課題5 市民と「食と農」とのつながりの深化

本市は食料品製造事業所数、食料品製造出荷額ともに全国で上位の位置を占め、食品関連産業の集積が本市の強みの一つとなっています。また、直売所には地元の新鮮な農産物が並び、地域の魅力を学ぶ「アグリ・スタディ・プログラム」、農業サポーター推進事業などが展開されるなど、「食と農」に関わる多くの取組がなされており、多くの市民は地場産の農産物、食文化等に対して誇りと愛着を抱いています。

田園と都市が近接するという本市の特色を活かし、市民の「食と農」や食文化への理解、地産地消を促すことで誇りや愛着を高めていくとともに、国内外と結ばれた高い拠点性を活かしながら豊富な地域資源の魅力を広く発信し、ブランド力の向上につなげる必要があります。

課題6 農地の多面的機能の発揮と、コミュニティ活力の創出

農業と農村は、食料の供給という役割だけでなく、農業生産活動を通じた農地や水路、農道など地域資源の適切かつ継続的な維持管理によって雨水の保水・貯留による洪水防止機能や水源かん養機能、また生態系の保全・良好な景観の形成といった多面的機能に加え、農村地域における地域コミュニティ維持の役割も果たしています。

しかし、近年の農村地域の高齢化、混住化等の進行に伴う集落機能の低下により、地域の共同活動によって支えられている多面的機能の発揮に支障が生じつつあります。また気候変動の影響により豪雨災害が頻発し各地に甚大な被害をもたらしており、低平地が広がる本市において農業・農村の多面的機能の重要性は増す一方です。

今後は、市民全体が農業・農村の多面的機能を享受していることへの意識を醸成するとともに、集落の現状をふまえた持続可能な共同活動を通じ、魅力と活力にあふれた農村地域の維持・活性化を進める必要があります。